『何を見い出すのか』 ～あなたの人生から何を見、学びますか？～	創世記４：２～１５

夏の風物詩である花火。大きな花火は球体のように広がっていきます。ですからどこから見ても丸く同じように見えます。私たちは生きている中で様々な人と関わりを持ちます。私たちは周りにいる人からどのような印象を持たれているでしょうか。花火のようにどの人から見ても同じように見えているのでしょうか。しかし私たちはほとんど周りの人のために何かをしています。仕事も初めは誰かのために自分の持てる力で行ったことから始まりました。すべて自分のためではなく、周りにいる誰かのためにしていたり、自分のためにしているようなことでも、回りまわると周りのためにしている事につながります。私たちは1人で生きていません。その時、どのような気持ちで周りの人に対して接しているかで大きな違いが出てきます。周りにホッとさせる生き方をせず、何か波紋をたてているような生き方になっているならば、方向転換する必要があります。サウル王とダビデ王がいましたが、一方は神に愛され、一方は神から悔やまれました。サウルは容姿端麗であり、誰から見ても王に相応しい人でしたが、心が王として相応しくありませんでした。ダビデは親兄弟からは除け者にされるような、見た目では王として相応しくなかったかもしれません。しかし羊飼いとして学んだ心は王として相応しいものでした。私たちの人生のなかで『何を見い出すのか、何を学んでいるのか』これは大きな違いを生み出します。（創世記４：２～１５）カインとアベルが神に捧げものをしている箇所です。アベルの捧げものを神は選ばれ、カインの捧げものは神は受け入れませんでした。カインはアベルに嫉妬をし、アベルを殺してしまいます。私たちの人生の中でもある人は認められ、ある人は認められないことはよくあることです。そのような経験をしている私たちはカインの気持ちは少し理解することができます。ここで注目したいことは、カインとアベルは自主的に捧げものしていることです。誰からも強制されずに捧げようと思い、実行しました。カインもアベルも良い動機からしようと思いました。自分のしている仕事の中で準備をしていきました。神は捧げ物を用意する段階での心の違いを見ていました。カインの捧げものは神に受け入れられず、アベルの捧げ者は受け入れられました。なぜこのような事になったのでしょうか。聖書は「カインの何かが正しくなかった」からであると言っています。明確に書かれていませんので、想像するだけですが、アベルの仕事と比べ「楽そうだ」と思っていたり、「喜んでしていなかった」のではないかなどといろいろと考えられます。私たちがカインならどのような行動に出、どのような不平不満が出てくるのでしょうか。私たちが周りの人のためにしようとする時、どのような気持ちが起こるのでしょうか。「面倒くさい」「いやだなぁ」とか「自分が疲れているのになぜ自分だけがするのか」･･･というような気持ちでしていたらカインと同じです。また自分に良くしてくれる人にだけ良い事をするように、相手によって違った思いでしていることも同じです。受け入れられなかったカインは神との会話の中で、自分の非を認める事ができず、アベルを殺してしまいます。カインはアベルに対して嫉妬し、赦せない思いからこのような行動に出てしまいました。私たちも自分が正しくない行動を取っていることは自覚しています。自己中心になり、人を傷つけていても責任転嫁したり、悔い改める事をせずに過ごしてしまうようになりました。そしてあの人とは関係ない！と関係を切るような言動になっていきます。私たちは主にあって相応しくない思いになるとその人と関わりを断ちたくなります。「罪は戸口で私たちを恋い慕っているがそれを制するべき」なのです。「欲がはらむと罪をうみ、罪が熟すると死にいたります。」私たちは罪の段階で、悔い改めていく必要があります。罪を犯しますが、罪を犯したままにしてはいけません。罪を犯す理由があり、原因があります。私たちはそれを取り除かなくてはいけません。どうしてそうなったのでしょうか。それは**①喜びと感謝**がなかったからでした。カインが罪を犯した理由として喜びと感謝がなかったからでした。私たちのしているすべての行動は実を残すためにしています。そこに喜びと感謝があれば、受け入れられるのです。神が求めているものは物質ではなく、それがどのような香りを放っているのかなのです。聖書の中に生贄や賛美を捧げていますが、すべて香りで受け取っています。私たち自身がかぐわしい香りを放つようになっているのかが問われているのです。なぜ喜びが湧いてくるのでしょうか。自分だけがやっているという思いでは決して喜びながら行動することはできません。そして感謝もできません。喜びと感謝はセットです。喜びがないのに感謝ができるわけがありません。口先だけで感謝するのではなく、心からの感謝を捧げていくには喜んでいなければできません。（ピリ３：１～２）私たちの「安らかに主の道を全うするため」に喜びが必要です。そして**②愛に生きる**ことです。私たちは愛を持って生きていれば、私たちは自分を制御することができます。他人を傷つけるようなことはありません。アダムとエバが愛し合っていれば、人を裏切ることはありませんでした。また責任転嫁する必要もありませんでした。私たちは人と比べ、それ以上に良くなりたいと思うようになっていきました。それ故にイエスキリストは十字架にかかったのです。私たちはこのイエスキリストの愛を知っています。その愛を受け取った私たちは、罪を犯したままではいけません。私たちはいつも正しい事は知っています。しかしこれは人間的に行おうとしてもできません。私たちはイエスの御名によって愛すると決心し、宣言していきましょう。大切なことは決心することです。すべてはこの愛に帰着します。目の前に主を置くことも、愛の実を残していくために必要なことです。いつも目の前に主を置いた人生となっていきましょう。そして道を外したのであれば**③悔い改め**ましょう。私たちは正しい事かを判断する基準を持っています。それは聖書です。それを見て、私たちが間違っていないかをチェックしているだけです。悔い改めは無理やり「ごめんなさい」を言わして、負けを認めさせるようなものではありません。本来の意味は、的を外した歩みを元に戻すことです。もう一度正しい理解をして悔い改めをしていきたいと思います。悔い改めとは勝利の道です。（Ⅰヨハネ３：９～２４）多くを赦された人は多く愛するようになりました。私たちは周りにいる人々を愛し、受け入れていかなければなりません。私たちは同じ罪をくり返すことなく、歩んでいくためにも悔い改めていきましょう。そして感謝と喜び、そして愛にあふれた人生を送っていきましょう。（要約者：平澤一浩）